春日部市立桜川小学校

# 学校だより

７月号　令和２年　６月 29 日発行

春日部市大衾４９６－１　℡７４６－６２３８　児童数６７８名（6/29 現在）
桜川小HP　https://schit.net/kasukabe/essakuragawa/

**学校教育目標**
○進んで学ぶ子（かしこく）
○思いやりのある子（やさしく）
○体をきたえよく働く子(たくましく)

地域と共に　はぐくむ
やさしさと笑顔あふれる
活力ある学校

## ７月の生活目標

「右側を静かに歩こう」
※廊下は道路と同じ。ルールを守り歩きましょう 。

## 不便が学びを深める　“不便益”という視点

学校が再開し1か月が経ちました。ソーシャルディスタンスや手洗い・消毒の徹底、ウイルス感染防止に配慮した授業内容や取り組み方など、子供たちは新しい生活様式にも徐々に慣れ、学校生活のペースを取り戻してきました。分散登校を終え６月１５日から全員登校となりましたが、久しぶりに会えた友達に、そしてクラス全員そろってスタートできたことに、子供たち本来の笑顔と元気が戻ってきたように感じます。どの教室も落ち着いて真剣に学習に取り組む子供たちの姿が見られます。当たり前にやってきたことが、実は当たり前ではなかったことを学び、日々の生活を大事にしていきたい、そんな気持ちも伝わってきます。

さて、皆さんは不便益という言葉(造語)を聞いたことがあるでしょうか。京都大学の川上浩司教授が提唱・研究しているもので、「不便だからこそ得られる益(良さ・利益)」という意味になります。世の中は便利になるように、楽になるようにと技術を向上させ、今はボタン一つで簡単に調理や掃除ができます。スマホで外出先からエアコンをつけたり、お風呂を入れたりすることもできます。便利になったことで労力が減り、その分、身体を休めたり別のことに時間を使ったりもできます。有難いことです。でも、便利ばかりを追求することは本当に良いことなのか、不便なことはすべて駄目なのかと、川上教授は問いを投げかけています。例えば、ある幼稚園の園長は、園庭をわざとデコボコにして園児の動きを不便にさせました。平らな方が安全で移動も便利です。しかし、デコボコの園庭にしたことで、園児たちが活き活きしてきたといいます。体幹も鍛えられ、遊びにも工夫が見られるようになったそうです。かけっこをしても、いつもどおりに足の速い子が勝つのではなく、色々と考えて勝てる子も出てきました。川上教授は、不便から得られる益として次の８つを挙げています。

①主体性が持てる　②工夫できる　③発見がある　④対象が理解できる
⑤安心・信頼できる　⑥上達できる　⑦私だけ感が得られる　⑧能力低下を防ぐ

そして、「便利になると受動的になり『やらされている感』が強まりますが、不便なものは主体的に動けることが多いため、自分で行動しているという感覚が得られます。不便だからこそ、自分の頭を働かせて工夫しようとします。」と言っています。不便なものを古いもの、面倒くさいものとただ遠ざけるのではなく、不便だと思えることにも敢えて取り組んでみる、その姿勢が様々な気付きを生み、学びを深めることにつながるのだと改めて感じました。

（校長　加藤大二）

## ☆日々の活動が戻ってきました。～桜っ子たちの笑顔～

６月１日から分散登校、６月１５日から全員登校で、学校が再開しました。全員そろって学習する楽しさや充実感を改めて桜っ子たちは感じているようでした。当面「新しい生活様式」での学習が続きます。「WITH コロナ」で、教育活動を展開してまいります。

分散登校時の給食

換気を工夫した教室

### 校庭がきれいになりました。

おやじの会の方が環境整備をしてくださいました。校庭、正門付近、バスケットコートなど雑草が伸び放題であったところの草刈りをしていただき大変きれいになりました。

ありがとうございました。

### 気軽にカウンセリング

スクールカウンセラーさんが、来校します。相談希望の保護者の方は、「スクールカウンセラーだより」(6月配布）の予約票に記入の上、担任へ提出してください。

来校日
7/2　8/6
9/10　10/29　12/17
2/18　3/18　3/25